

## (9) 5年経って2基しか動いていないのはなぜか？

東京都一般男性

2011年3月11日の震災と福島原発事故から5年数ヶ月が過ぎ去った。確かに津波に流され、堤防はできているが、その跡地でまだ呆然と言ったところがないわけではないが、運転再開許可の降りない原子力発電所や試験研究炉では、一体何をどこまでやればよいのかという焦燥感、いや諦めに今や埋没していないだろうか？もう原発は動かないのか？それで良いのか？

一義的には我が国の規制が再開の許可を下ろしていないからだが、何故下ろしていないのか、事業者側の対応が遅れているのか？世界一の規制基準に照らしての審査に時間がかかるのか？確かに想定する天然災害の規模を大きくする必要は認められる場合が多いのかもしれないが、それとて無制限、なんでもありの世界ではあるまい。土台その天然災害の大きさの推定についてもとても透明性があるようには見えず、近頃の報道も含め独断と偏見で泥まみれではなかろうか？特に地震災害分析については日本が世界一という傲慢を改め、各国の叡智から学ぶべきである。

炉心溶融時の格納容器からの核分裂生成物質の漏洩を防止せよ、は妥当な要求だが、これには多様な対応手段がありうるはずだが、欧州ではみんなフィルターベントだということで我が国でも必須となってしまった。これは思考停止もしい加減にしると私は言いたい。案の定、日本の規制委員会が崇拝する米国のNRCでは限定的な採用についてのパブコメまで否定してしまった。BWRの古いタイプへの採用はやむを得ないにしても何も全部につけろとはべらぼうだと私は当初より一人孤立無援であった。ある時原子力安全の著名な方にご意見を伺ったら、米国の事業者など信用できない、の一言、またこれもある識者に申しあげたら、日本の原子力に対する懲罰の一つとして認めると言われた。理解はできるが私はそうは思わない。科学や技術、そしてリスクなどは一体どこへどうやってしまったのか？

欧州流のバンカー保護施設、我が国では「特重」、有事の際の予備の電源と冷却水で、考えとしては結構だが、要求される機能がこれまた桁外れになりつつあるようである。こういうもの、先ほどのFVSにしてもいざという時に使えるものでなければただの飾りにもならず、将来の笑いものだ。注水や電源のためのモバイル機器として、各サイトでは消防車や電源車を準備しているが、東電柏崎では40数台の消防車、20数台の電源車が配置済みと聞いた。秒速100メートルの竜巻に飛ばされないようにと各車両はチェーンなどで捕縛されているとすると、これは一体何なのか？消防車、電源車のメーカーはウホウホであろうが、使えるかどうかの点検や保守は一体どうするのだろうか？

我が国のプラントはもはや外人には見せるべきではないと私は言っている。アジアなどの原子力新興国は原子力発電所を作りたいのであって、お城なんぞを作るつもりはないと、逃げ帰りはしないだろうか？

いずれにしても、現在の規制は極端に事業者を悪者扱いし、福島事故の張本人には厳しく当たることが自分たちに与えられた使命であるかのごとくふるまっている。実際はグルになっていたこともあるのにそんなことはおくびも出さず、「世界一厳しい規制」を標榜して、何でもかんでも付けさせる、一つでも規制緩和とみられそうなことはできない。実際どこまでが安全上必要なのかは顧みず、少なくとも外観上厳しいと見えるビヘイビアが求められる。これをやりすぎて、何基も動いていないという現状につながる。

確かにどこまでやれば安全なのかなんて言う議論は結構難しい、というか一元的な解はない。しかし多くの人々がとりあえず理解できる安全目標の議論はあって、細かなことを除いておおむね世界共通と考えてもよいかもしれない。我が国の安全委員会でも過去に定量的な安全目標についての議論があり、今次の規制委員会でも大量放出の確立限度を含め公表したことがあるが、しかしすぐさま検討中として取り下げている。規制強化が性能でもって評価するなら、例えば FVS の設置によって LLF がどれだけ下げられるかなど、他の代替手段を含めた議論、検討が可能となる。米国ではこれがなされて、冷却水追加のほうが効果あるということで FVS の設置は不要となった。安全目標が使われると審査の裁量が制限される局面が増える、これを規制は怖がった。

そう簡単には運転再開は認めてやらないのだという大向こうに切った見得はそろそろほころびかけている。

平成 28 年 7 月 28 日